



平成 26 年 2 月 19 日  
ストラスブール研究連絡センター

## フランス高等教育研究省(MESR)

### ●「がん計画 2014-2019 の開始」

2014 年 2 月 4 日、世界対がんデーの際、フランソワ・オランド大統領は、第 3 期がん計画 2014-2019 の概要を紹介し、がん検診受診の普及や職場復帰など、がん疾患に関わる社会的不平等対策の重要性を再確認した。

本計画には 15 億ユーロが支給される予定で、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣とマリソル・トゥレーヌ厚生大臣が共同で議長を務める委員会の主導の下、取り組まれる。本計画では、がん予防と治療の新アプローチの発展を主要目的としている。

フランスでは、年間約 1 万 4800 人ががんのために死亡し、35 万 5000 人(男性 20 万 350 人、女性 15 万 5004 人)が新たにがんを患う(2012 年現在の統計値)。がんによる死亡の内、最も多いのが、肺がん(男性)・乳がん(女性)、次いで、大腸がん(男性)・肺がん(女性)、前立腺がん(男性)・大腸がん(女性)が多い。フランスでは、禁煙が、最大の「実践可能ながん予防法」であることから、たばこの消費を抑えるべく、値上げが行われてきた。

・フランス高等教育研究省 “Lancement du Plan cancer 2014-2019”(2014 年 2 月 4 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid76887/lancement-du-plan-cancer-2014-2019.html>

・Le Monde “Cancer: de nouvelles mesures pour lutter contre les inégalités”(2014 年 2 月 5 日)

・DNA “Cancer: ce qui va changer pour les malades”(2014 年 2 月 5 日)

### ●「再生可能エネルギー推進プロジェクト公募の開始」

アルノー・モンテブル生産再建大臣、フィリップ・マルタン環境・持続可能開発・エネルギー大臣、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣、ルイ・ガロワ投資委員会委員長は、未来への投資プログラムの枠組みの中の「再生可能エネルギー」へのプロジェクト公募(A.M.I)の開始を発表した。

フランスでは、近年、再生可能エネルギーのイノベーションに重点を置き、2011 年には太陽光・風力エネルギーに関するプロジェクトを募集、2012-2013 年には、地熱、海洋エネルギー、エネルギーの貯蔵をテーマとした。2014 年は、4 タイプの再生可能エネルギー(太陽光、太陽熱、風力、再生冷気)と再生可能資源のハイブリッド技術を対象にした、新たなプロジェクト公募によってイノベーション支援を強化する。公募締め切りは 2015 年 10 月 2 日。

・フランス高等教育研究省“Lancement de l'Appel à manifestations d'intérêt 'énergies renouvelables'”

(2014年2月6日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid76941/lancement-de-l-appel-a-manifestations-d-interet-energies-renouvelables.html>

### ●「フランス-アルジェリア高等教育・研究会議」

2014年1月20日、アルジェリアのアルジェで、第3回フランス-アルジェリア高等教育・研究会議が開かれた。本会議は、教育・研究・産業への応用に関する戦略部門において、フランスとアルジェリア間の調和が取れた提携関係の発展に焦点を当てている。本会議には、両国の大学関係者、研究者、大学及びグランゼコールの学長、企業代表者ら、約200人が参加した。

・フランス高等教育研究省“Conférence franco-algérienne de l'enseignement supérieur et de la recherche”(2014年1月21日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid76543/conference-franco-algerienne-de-l-enseignement-superieur-et-de-la-recherche.html>

### ●「Gay-Lussac Humboldt 賞 2013」

2014年1月22日、仏独祝賀デーの際、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣は、Gay-Lussac Humboldt 賞受賞者を祝福した。本賞は1983年に開始し、今回で31回目を迎える。科学アカデミーの審査を経て、高等教育研究省によって、フランスとドイツで活動した卓越した研究者に授与される。今回は、ドイツで活動した研究者2名とフランスで活動した研究者10名が受賞者に選ばれた。

・フランス高等教育研究省“Attribution du Prix Gay-Lussac Humboldt 2013”(2014年1月22日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid59085/attribution-du-prix-gay-lussac-humboldt-2013.html>

### ●「海・沿岸領域国立評議会の海・沿岸領域研究のための委員会の設置」

2014年1月31日、海・沿岸領域研究のための委員会(COMER)が設置された。本委員会は、海・沿岸領域国立評議会メンバー12名と有識者11名から構成され、海に関する政策の実施に取り組む。

・フランス高等教育研究省“Installation du Comité pour la recherche marine, maritime et littorale du Conseil national de la mer et des littoraux”(2014年1月31日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid76801/installation-du-comite-pour-la-recherche-marine-maritime-et-littorale.html>

## ●「フィオラゾ大臣の新年会での演説」

2014年1月21日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣は新年会の際、ケ・ブランリ(Quai-Branly)美術館で、高等教育・研究関係者らに向けて演説を行った。概要は以下の通り。

### 「2013年の成果およびフランスの現状」

学生の成功と高等教育研究の社会への奉仕を目的とした「高等教育・研究法案」の立法により様々な変化をもたらした。環境、社会経済、国際社会、高等教育・研究に対して「開けた法律」を制定することで、大学卒業後の就職を視野に入れた支援を行い、また、MOOCs、企業家の推進、知的財産の簡素化、研究成果の産業イノベーション転換などに取り組み、成果をあげている。また、フランスが外国人学生の受け入れに関して、5位から3位に浮上したこと、大学卒業生の就職率が高水準であること、研究水準が世界で6位につけていることが明らかになった。学生の学業成就の向上には、就学環境の改善が重要であることから、住居、健康、文化的生活の充実等に取り組んでいる。

### 「2014年の構想」

未来への投資プログラムの第2波に呼応した地域再編の実施に取り組む。また、変化し続けるべく、国の戦略を明確に規定する。研究戦略評議会が2013年12月に発足し、現代の社会的課題や時流に対応した戦略を練る。たとえば、今年には欧州宇宙機関の「欧州宇宙50周年」に当たり、フランスとドイツが設立に貢献した、NASAに継ぐ世界第2位のESA(European Space Agency:欧州宇宙機関)での、フランスの立場の強化に努めることが挙げられる。また、生物学、とくに現在発展の目覚ましいシステムバイオロジーが21世紀に注目される分野であると予想されるので、注目していく。

・フランス高等教育研究省“Discours de Geneviève Fioraso lors de la cérémonie des vœux”(2014年1月22日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid76567/discours-de-genevieve-fioraso-lors-de-la-cereemonie-des-voeux.html>

## フランス国立科学研究センター(CNRS)

## ●「Rachid Yazami 氏、ドレイパー(Draper) 賞を受賞」

CNRS 研究ディレクターで、シンガポールの南洋理工大学に出向中の Rachid Yazami 氏が、全米技術アカデミーのドレイパー賞を受賞した。充電式のリチウム電池の開発が評価されたことによるもので、日本の吉野 彰氏、西 美緒氏、米国の John Goodenough 氏との共同受賞となる。

・CNRS “Rachid Yazami, reçoit le Prix Draper 2014 de la National Academy of Engineering”(2014年1月8日)

[http://www.cnrs.fr/inc/communication/direct\\_labos/yazami\\_drapier2014.htm](http://www.cnrs.fr/inc/communication/direct_labos/yazami_drapier2014.htm)

### ●「CNRS、ERC プロジェクトの資金獲得者が最多の機関」

2014年1月14日、ERCは「Consolidator Grants」2013公募の結果を発表し、CNRSがそのトップに輝いていることが明らかになった。本研究プロジェクト公募は、第7期PCRD(研究開発プログラム枠組み)最後のもので、312名の研究者を選出した。CNRSからは14名が選ばれ、ワイツマン科学研究所(10名)、オックスフォード大学(9名)、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン(9名)と続く。国別では、フランスは42名と、英国(62名)、ドイツ(43名)に続いて、欧州で3番目になった。

・CNRS “Le CNRS organisme le plus récompensé par le Conseil européen de la recherche (ERC)” (2014年1月14日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3387.htm>

### フランス国立研究機構(ANR)

### ●「ライフライン保護に関する仏独プロジェクト公募、近日開始」

2014年1月22日 ANRとドイツ教育科学・研究技術省(BMBF)は、ライフライン保護に関する仏独プロジェクトの募集を開始した。本プログラムは、エネルギー(電気、石油、ガス、ガソリン)、水の供給、交通網などに関するライフライン保護の向上を目指した革新的研究を支援する。対象プロジェクトは仏独共同研究に限る。書類提出締め切りは2014年5月5日。

・ANR “Ouverture de l’appel franco-allemand sur la protection des infrastructures critiques ”(2014年1月22日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/ouverture-de-lappel-franco-allemand-sur-la-protection-des-infrastructures-critiques/>

### ●「中国、ANRの非欧州の第1パートナー」

2014年1月27日、フランス-中国間の国交樹立50周年にあたるこの日、ANRは中国との協力関係を再確認した。中国は、共同研究プロジェクトに関して、非欧州国の中で1番のパートナー国である。仏中間の研究提携は1978年に開始し、ANRは、中国自然科学基金委員会(NSFC)、中国科学技術省(MOST)を通じた2国間協定において主要な役割を担っている。

2007年より、ANRによって共同出資されている仏中共同プロジェクトは55件、1500万ユーロに上る。2014年は、情報・通信科学技術分野の仏中コラボレーションを公募するなどして、ANRとNSFCの協力関係を継続させる。またANRは、社会科学分野の「Chine Europe」多国間プロジェクトにも参加する。

・ANR “La Chine, premier partenaire non européen de l’ANR”(2014年1月14日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/la-chine-premier-partenaire-non-europeen-de-lanr/>

### ●「ANR、トルコの対応機関と協定議定書に署名」

2014年1月27日、フランスワ・オランド大統領のトルコ訪問の一環として、Tübitak(トルコ科学技術研究評議会)会長の Yücel Altunbaşak 教授と ANR 事務局長 Pascale Briand 氏が、協定議定書に署名した。本議定書では、両国間の既存の関係を具体化して、共同研究プロジェクトの出資準備をする。

Tübitak と ANR は、2007 年より、ERA-NET と共同プログラムイニシアチブ (JPI) の中でコラボレーションを行ってきた。2007-2012 年期には、両国の研究グループを含む 28 プロジェクトが、両機関から出資を受けていた。

・ANR “L’ANR signe un protocole d’accord avec son interlocuteur turc” (2014 年 1 月 28 日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/lanr-signer-un-protocole-daccord-avec-son-interlocuteur-turc/>

### ●「ERA-NET Cofund」

欧州委員会は、新たな研究開発プログラム Horizon 2020 の中で、欧州規模の研究における資金調達を円滑に進めるための新制度、「ERA-NET Cofund」を実施する。本制度、既存の ERA-NET と REA-NET+ を組み合わせたものである。

第 6 期・第 7 期 PCRD の ERA-NET では、研究機関が共同で、人材と財源を共同活動に利用していた。それらの活動には、国際研究プロジェクトを資金援助するための公募の実施が含まれており、欧州委員会は、ERA-NET 参加機関が公募を行うための経費を払い戻していた。第 7 期 PCRD では、別に ERA-NET+ を提案していたが、プロジェクト公募の実施のみが対象で、欧州委員会は、公募で選ばれた研究プロジェクトに対してのみを資金供給の対称にしていた。ERA-NET Cofund では両制度を統合することで、より大きな資金を研究面に費やすことになる。

・ANR “ "ERA-NET Cofund" Un nouvel instrument au service du financement de la recherche sur projets en Europe ” (2014 年 2 月 5 日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/era-net-cofund-un-nouvel-instrument-au-service-du-financement-de-la-recherche-sur-projets-en-europe/>

**フランス国立農業研究所 (INRA)**

### ●「PHAN の研究者が『Women in science』に選ばれる」

UMR PHAN (Physiologie des Adaptations Nutritionnelles) の研究者 2 名、Valérie Amarger 氏と

Patricia Parnet 氏が、欧州の雑誌「International Innovation」の増刊号「Women in science」に選ばれた。両氏の、新生児の成長と栄養戦略に関する分娩前後期の栄養の効果に関する研究が評価されたことによる。

・INRA “ PhAN, je vous aime ! ” (2014 年 1 月 16 日)

<http://www.angers-nantes.inra.fr/Toutes-les-actualites/Women-in-science>

## フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)

### ●「Coq, SIGPLAN Software Award 受賞」

2014 年 1 月 22-24 日、米国カリフォルニアのサンディエゴで開催されていた POPL (プログラミング言語原理) 会議の際、Coq ソフトウェアに SIGPLAN Programming Languages Software Award (プログラミング言語ソフトウェア賞) が、ACM (米国計算機学会) より授与された。Coq は証明支援システムで、記述やプログラム確認の支援ツールに使われるなどして、30 年近く利用されてきた。

本賞は、Gérard Huet 氏と Thierry Coquand 氏、Yves Bertot 氏、Jean-Christophe Filliâtre 氏、Matthieu Sozeau 氏らに代表される Coq 開発チームに贈られた。

・INRA “ Coq reçoit le SIGPLAN Software Award ” (2014 年 1 月 8 日)

<http://www.inria.fr/actualite/actualites-inria/un-prix-pour-coq>

## フランス高等科学研究所 (IHÉS)

### ●「Jean-Pierre Bourguignon 教授、ERC 会長に就任」

2014 年 1 月 1 日、IHÉS 前所長 Bourguignon 教授が ERC 会長に就任した。氏はフランスの数学者で、CNRS 研究ディレクター、エコール・ポリテクニク教授等、1994 年より 19 年間 IHÉS 所長を務めた。同教授は、フランス内外の数々の賞を受賞し、その中には慶應義塾大学の名誉博士号 (2008 年) が含まれる。

・IHÉS “ Nomination de Jean-Pierre Bourguignon à la Présidence du Conseil Européen de la Recherche ”

[http://www.ihes.fr/jsp/site/Portal.jsp?document\\_id=3473&portlet\\_id=1122](http://www.ihes.fr/jsp/site/Portal.jsp?document_id=3473&portlet_id=1122)

・ERC “ Prof. Jean-Pierre BOURGUIGNON ”

<http://erc.europa.eu/organisation/jean-pierre-bourguignon#>

## フランス各紙

### ●「オランダ大統領のストラスブール訪問」

2013年1月29日、フランソワ・オランド フランス大統領が、大統領就任後2度目のストラスブール訪問を行った。本訪問は、高等教育研究を主テーマとし、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣とマリソル・トゥーレーヌ厚生大臣が同行した。大統領は、ストラスブール大学のISIS (Institut de Science et d'Ingénierie Supramoléculaires :分子理工学研究所)で、ノーベル賞受賞者のJean-Marie Lehn教授とMartin Karplus教授と面会した後、同大学のパレ・ユニベルシテで、仏独大学共同課程の学生12名と討論会を行い、ストラスブール市内のIRCAD(がん・消化器研究所)所長Jaques Marescaux教授を訪れた。

大統領は、アルザス州知事、ストラスブール市長、ケール市長など仏独地方政府要人を含む200名の出席の下、仏独大学共同課程学生のプレゼンテーションの折、2月19日にパリで行われる仏独閣議で、ストラスブールに「欧州キャンパス」を創設することを話し合う意向であることを発表した。ストラスブール大学Alain Beretz学長は、「大統領の本発表は、ストラスブール大学にとっては『嬉しい驚き』であり、これまでにEUCOR(ライン上流大学連盟)を中心に取り組んできた仏独大学間の研究・教育交流を強化させることができる」と、意欲を見せた。

- DNA “La visite du président de la République François Hollande au palais U”(2014年1月30日)
- DNA “La science pour moteur”(2014年1月31日)
- DNA “Visite présidentielle sur le campus universitaire La science de Hollande”, “L'idée d'un « campus européen » à Strasbourg”(2014年1月31日)
- DNA “La recherche d'un intérêt”(2014年2月1日)